

日本語 OpenVMS

日本語 EVE かな漢字変換入門

AA-PQE8E-TE

1999 年 4 月

本書は、日本語 EVE を使用して、簡単な文書編集をする方法について説明します。

改訂/更新情報:	日本語 OpenVMS V6.1 『日本語 EVE かな漢字変換入門』の改訂版です。
オペレーティング・システム:	日本語 OpenVMS Alpha V7.2
<	日本語 OpenVMS VAX V7.2
ソフトウェア・バージョン:	日本語 EVE V3.3

コンパックコンピュータ株式会社

1999 年 4 月

本書の著作権はコンパックコンピュータ株式会社が保有しており、本書中の解説および図、表はコンパックの文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、コンパックは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されます。

© Compaq Computer Corporation 1999.

All Rights Reserved.

Printed in Singapore.

本書は、日本語 VAX DOCUMENT V 2.1を用いて作成しています。

目次

まえがき	vii
第 1 部 入門編	
1 日本語 EVE を使ってみましょう	
1.1 セットアップ	1-2
1.2 入力方法の選択	1-8
2 文字を入力しましょう（ローマ字入力の場合）	
2.1 ひらがな	2-1
2.2 カタカナ	2-2
2.3 半角カタカナ	2-3
2.4 英字	2-4
3 文字を入力しましょう（カナ入力の場合）	
3.1 ひらがな	3-1
3.2 カタカナ	3-2
3.3 半角カタカナ	3-3
3.4 英字	3-4

4	漢字に変換しましょう	
4.1	「かんじ」「漢字」「感じ」に変換する	4-1
4.2	変換候補群の中から選びましょう	4-2

5 文章の作成例（入門編のまとめ）

第2部 実践編

6	漢字かな交じり文に変換しましょう	
6.1	複文節の変換	6-1
6.2	部分確定	6-2

7	文節を拡大／縮小しましょう	
7.1	文節の拡大	7-1
7.2	文節の縮小	7-3
7.3	カーソルが進み過ぎたときは	7-5

8 入力を間違えたときには

9	半角英数字を入力するには	
9.1	半角英数モード	9-1

第3部 応用編

10	記号とコードを入力してみましょう	
10.1	記号モード	10-1
10.2	コード・モード	10-4

11 罫線を引いてみましょう

12 図表の作成例（応用編のまとめ）

A 変換キーのまとめ

B 変換対応表

索引

図

1	キーパッドの配列図	x
1-1	初期画面	1-3
1-2	変換キーパッドの入力	1-5
1-3	編集画面	1-5
B-1	ローマ字かな変換対応表	B-2
B-2	ローマ字かな変換対応表 (つづき)	B-3
B-3	モード別変換対応表 A：ローマ字漢字モード	B-4
B-4	モード別変換対応表 B：かな漢字モード	B-5

表

1-1	5つの入力モード	1-6
A-1	ひらがな・カタカナ・英字の変換に使用するキー	A-1
A-2	漢字の変換に使用するキー	A-1
A-3	文節の拡大／縮小に使用するキー	A-2
A-4	TARO キーパッドの便利な定義済みキー	A-3

まえがき

日本語 EVE 概要

日本語 EVE は、日本語 OpenVMS オペレーティング・システムの上で利用できるエディタです。日本語 EVE を使えば、手紙やレポートなど、いろいろな種類のファイルを簡単に編集することができます。

本書の目的

本書は、日本語 EVE を使用して、簡単な文書編集ができるようになることを目的としたマニュアルです。

対象読者

本書は、日本語 EVE を初めてご使用いただく方を対象に、起動から終了までの一連の流れ、日本語入力に必要な基本事項などについて説明する入門書です。

また、本書では、複文節変換、文節の拡大/縮小、記号や罫線の入力などについても説明していますので、日本語 EVE の基本操作に慣れた方が、さらに便利な機能を知りたい場合にも使用することができます。

(日本語 EVE では、5 つの変換キーパッドが用意されていますが、本書ではその中から、TARO キーパッド[†]を使用した日本語入力について説明します。)

[†] TARO キーパッドでは、“一太郎 Ver.3 ” (一太郎は、株式会社ジャストシステムの商標) の漢字変換キーパッドに似た変換方法を提供しています。

本書の構成

本書は3部の編と2つ付録から構成されています。

第1部	入門編 エディタの初心者を対象に、起動 入力 終了という一連の流れ、かな漢字変換の方法など、日本語入力に必要な基本事項について説明します。
第1章	日本語 EVE のセットアップ、および起動の方法について説明します。
第2章	ローマ字漢字モードでの入力の方法について説明します。
第3章	カナ漢字モードでの入力の方法について説明します。
第4章	TARO キーボードでの漢字変換について説明します。
第5章	入門編のまとめの練習問題です。
第2部	実践編 複文節変換、文節の拡大/縮小、入力文字の修正方法など、エディタに慣れたユーザが日本語入力を行う際に、便利な機能について説明します。
第6章	TARO キーボードでの文章の変換について説明します。
第7章	TARO キーボードでの文節の拡大/縮小について説明します。
第8章	TARO キーボードでの訂正の方法について説明します。
第9章	半角英数字モードでの入力について説明します。

第 3 部	応用編 記号，コード，罫線など，文書作成に便利な機能について説明します。
第 10 章	記号モードとコード・モードでの入力について説明します。
第 11 章	罫線機能の使い方を説明します。
第 12 章	応用編のまとめの練習問題です。
付録 A	変換キーについてまとめてあります。
付録 B	変換対応表を記載してあります。

関連資料

- 『日本語 EVE ユーザーズ・ガイド』
日本語 EVE を初めて使用するユーザを対象としたマニュアルです。日本語 EVE を使った，基本的な編集操作を習得することを目的としています。
- 『日本語 EVE リファレンス・マニュアル』
日本語 EVE エディタを使用したことのあるユーザを対象とした，リファレンス・マニュアルです。日本語 EVE コマンドの使い方，日本語 EVE の初期化の方法や拡張方法などについて説明した解説書です。

キーボードの使い方

キーボードには、4つのキー・グループがあります。キー・グループは機能によって、次のように分かれています。

メイン・キーパッド

キーボードの左側の部分。英数字、記号、カタカナと句読点が含まれています。

エディタ・キーパッド

メイン・キーパッドのとなりにあるキーパッド。矢印キー (◀, ▶, ▲, ▼) とFind, Selectキーなどのエディタ・キーが含まれています。

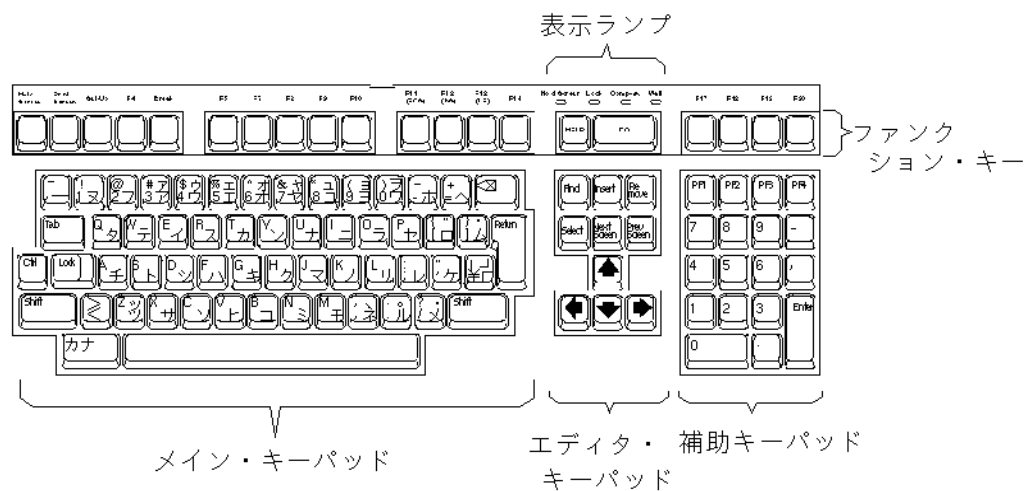
補助キーパッド

キーボードの右側にある数値キーパッド (KP0 ~ KP9 など)。

ファンクション・キー

キーボードの上部に並んでいるキー (F6 ~ F20)。

図 1 キーパッドの配列図



メイン・キーボードの主なキーについて説明します。

- **[Return]**キー

改行するときに押します。また、ある特定の動作が終了したことをシステムに知らせる役割もあります。

- **[Shift]**キー

キーの上段に書かれた文字（アルファベットの大文字、特殊記号など）を入力するときは、**[Shift]**キーを押しながら、該当するキーを押します。

- **[Lock]**キー

このキーを押すと、キーボードの上部にある Lock 表示ランプが点灯します。この状態でアルファベット・キーを押すと、その大文字が表示されます。もう 1 度**[Lock]**キーを押すと、Lock 表示ランプが消え、この状態でアルファベット・キーを押すと小文字が表示されます。

- **[カナ]**キー

かな入力するときに使います。このキーを押すと、かな入力モードとなり、キーボードの上部にあるカナ表示ランプが点灯します。もう 1 度**[カナ]**キーを押すと、ローマ字入力モードに戻り、カナ表示ランプが消えます（カナ表示ランプが付いていないキーボードもあります）。

- **[Ctrl]**キー

かな漢字変換など、特定のキーに割り当てられた機能を実行させるときに使用します。通常このキーを押しながら、他のキーを同時に押して使います。

- **[<X]**キー

カーソルの左側の文字を 1 文字消去します。

- **[Tab]**キー

カーソルを次の（指定された）タブ位置まで移動します。

表記法

本書では下記の表記法を使用します。

表記法	意味
\$	システム・プロンプト。ドル記号 (\$) は、システムのコマンド・レベルのプロンプトを示します。実際のプロンプトは、画面の左に表示されます。
KP0 ~ KP9	補助キーパッドの数字キーを指します。
Enter	補助キーパッドの右下にある Enter キーを指します。
PF1 ~ PF4	補助キーパッドの 1 番上に並んでいるキーを指します。
F6 ~ F20	キーボードの上部にあるファンクション・キーを指します。
Ctrl/A Ctrl-A ctrl_A	Ctrl キーと文字キーの A を同時に押します。大文字/小文字の区別はなく、また、 かな キーが押されていても関係ありません。
PF1 + A	PF1 を押した後に A を押します。同時に押す必要はありません。
太字	文中の太字のコマンド名は、日本語 EVE コマンドを示します。日本語 EVE コマンドは、 Do キーを押すと表示される Command: プロンプトに対して入力します。

第1部

入門編

エディタの初心者を対象に，日本語 EVE の起動 入力 終了という一連の流れ，
かな漢字変換の方法など，日本語入力に必要な基本事項について説明します。

日本語 EVE を使ってみましょう

この章では、日本語 EVE を初めて使用するユーザを対象に、セットアップと TARO キーボードでの簡単な入力について説明します。

セットアップとは、日本語 EVE を使う前の簡単な準備のことです。ここで TARO キーボードを使うことができるようにします。ここでセットアップを行ってから、次に進んでください。

入力方法の選択では、起動 入力 終了という一連の流れを説明します。TARO キーボードを使って、簡単な入力をしてみましょう。

1.1 セットアップ

日本語 EVE には、5 つの変換キーパッドがあります。ユーザは、日本語 EVE を初めて使用する際に、まず変換キーパッドを選択する必要があります。この操作をセットアップと呼びます。

セットアップは、日本語 EVE を初めて使用する際に一度だけ行ってください。それ以降、日本語 EVE を起動するたびに行う必要はありません。

本書では、TARO キーパッドを使用した編集操作について説明しますので、以下に、TARO キーパッドを選択する方法を説明します。

セットアップの開始

セットアップを開始します。まず、DCL の EDIT/XTPU コマンドを入力して日本語 EVE を起動してください。

\$ プロンプトに続けて `E D I T / X T P U` と入力して、`[Return]` キーを押してください。

\$ EDIT/XTPU `[Return]`

すると、図 1-1 のような初期画面が表示されます。

図 1-1 初期画面

* 変換キーパッドを設定して下さい。

* この設定は、今後の起動にも反映されます。

	変換	ひらがな	カタカナ	半角	全角	確定
EVEJ	^SP	^H	^K	^E	^F	
JVMS	^SP	^L	^K	^G^F	^F	
TARO	Space	F11	F12	F13	F14	Return

* SET KEYPAD コマンドで変更できます。

変換キーパッド名を入力して下さい (EVEJ/JVMS/TARO/JEDI/LEIA):

注意

この初期画面は、日本語 EVE を初めて起動したときにだけ表示されます。
2 度目以降は、起動後すぐに編集画面が表示されます。

この画面が表示されないときは、この章の最後にある "変換キーパッドの再
設定"をお読みください。

TARO キーパッドの選択

T **A** **R** **O**と入力して**Return**キーを押してください。

図 1-2 変換キーパッドの入力

変換キーパッド名を入力して下さい (EVEJ/JVMS/TARO/JEDI/LEIA): **TARO**

すると、図 1-3 のような編集画面が表示されます。

図 1-3 編集画面



(1) テキスト・ウィンドウ テキストを入力する部分です。

- (2) ステータス・ライン 現在のモードを表します。表 1-1 を参照してください。
- (3) コマンド・ウィンドウ
プロンプト・ウィンドウ 日本語 EVE のコマンドを入力する部分です。日本語 EVE が入力を要求するときに、プロンプトが表示されます。
- (4) メッセージ・ウィンドウ 日本語 EVE からのメッセージが表示されます。

(2) のステータス・ラインを見てください。"ローマ字漢字"という表示があります。これは TARO キーボードにある入力モードのことを意味します。

TARO キーボードには、表 1-1 の 5 つの文字入力モードがあります。

表 1-1 5 つの入力モード

文字入力モード	説明
ローマ字漢字	ローマ字で入力するモードです。日本語 EVE 起動時のモードです。
カナ漢字	カナで入力するモードです。
記号	画面下の方に表示される記号の中から選んで、入力するモードです。
半角英数	入力する文字はすべて半角英数字になり、変換されません。
コード	コード番号を入力して、文字や記号を入力します。

現在どのモードが選択されているかは、(2) のステータス・ラインの表示を見るとわかります。それぞれのモードが特有の入力方法を持っていますので、文字を入力する前にはステータス・ラインを見てモードを確かめるようにしてください。

なお、モードは **F10** キーで切り替わります。文字入力 (ローマ字漢字モード、カナ漢字モード) については、第 1.2 節を参照してください。

セットアップの終了

TARO キーパッドが使えるようになりました。これでセットアップは終わりです。
次のキーを押して、セットアップを終了させてください。

Ctrl/Z

Ctrlキーを押しながら、**Z**を押します。



再び、\$プロンプトが表示されます。

ここで選択したキーパッドは、2 度目以降の起動にも反映されます。次に日本語 EVE を起動するときには、すぐに編集画面が表示され、変換キーパッド名を聞かれません。

変換キーパッドを変更したいときは、この章の最後にある "変換キーパッドの再設定" を参照してください。

1.2 入力方法の選択

2つの文字入力モード

TARO キーパッドで文字を入力する方法は、2 つあります。キーボードのアルファベットに従って入力する "ローマ字入力" と、カナに従って入力する "カナ入力" です。

次のように、入力方法とモードが対応しています。

ローマ字で入力する	ローマ字漢字モード
カナで入力する	カナ漢字モード

それぞれのモードの特徴は次のとおりです。

ローマ字漢字モード

キーボードのアルファベットに従って入力します。ローマ字での入力に慣れている方には、このモードをおすすめします。入力するときには、カナ表示ランプが解除されていることを必ず確認してください。カナ表示ランプが点灯している場合は、**[カナ]**キーを押して解除します (カナ表示ランプが付いていないキーボードもあります)。

カナ漢字モード

キーボードのカナに従って入力します。カナの配列に慣れている方には、このモードをおすすめします。入力するときには、**[カナ]**キーを押して、カナ表示ランプを点灯させます (カナ表示ランプが付いていないキーボードもあります)。

日本語 EVE を起動して、それぞれのモードで入力の練習をしてみましょう。

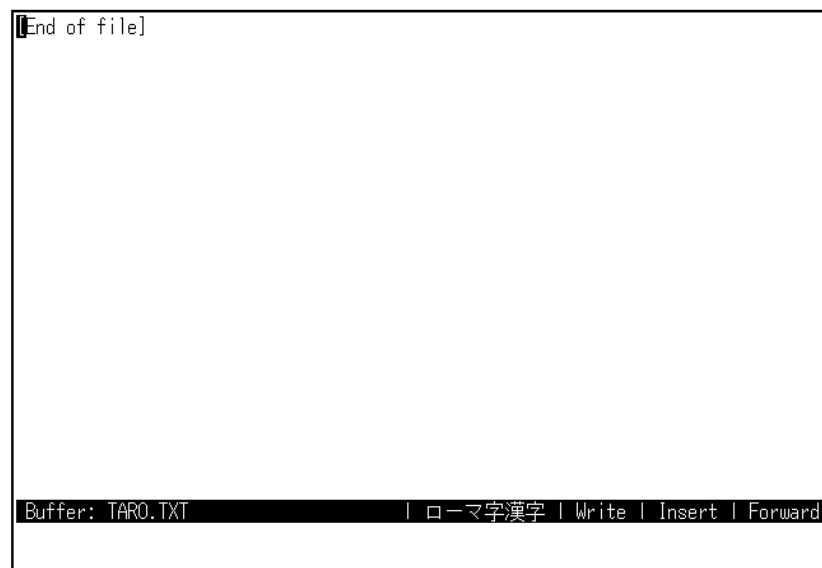
1. 日本語 EVE を起動します

日本語 EVE の編集セッションを開始するために、DCL の EDIT/XTPU コマンドを入力します。ここでは、ファイル名を指定して日本語 EVE を起動してみましょう。

以下のコマンドを入力して、日本語 EVE を起動し、TARO.TXT というファイルを作成します。

```
$ EDIT/XTPU TARO.TXT Return
```

EDIT/XTPU コマンドの次にスペースを空け、ファイル名を入力して、Returnキーを押してください。以下のような画面が表示されます。



2. 文字を入力します

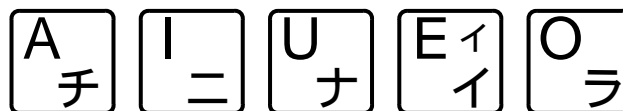
ローマ字で入力してみましょう

ステータス・ラインを見て、ローマ字漢字モードになっているか確認してください。日本語 EVE の起動時のモードは、ローマ字漢字モードです。他のモードのときには、**[F10]**キーを何回か押して、ローマ字漢字モードにしてください。

カナ表示ランプが点灯していたら、**[カナ]**キーを押して解除します。

次のキーを入力してみましょう。ローマ字漢字モードでは、キーボードのアルファベットに従って入力すると、画面にはひらがなが表示されます。

《入力するキー》



入力が終了したら、**[Return]**キーを続けて2回押してください。

カナで入力してみましょう

まず、モードを切り替えます。F10キーを押して、ステータス・ラインの表示をカナ漢字にします。

カナキーを押して、カナ表示ランプを点灯させます。

次のキーを入力してください。カナ漢字モードでは、キーボードのカタカナを押すと、画面上にひらがなが表示されます。

《入力するキー》



3. 日本語 EVE を終了します

Ctrl/Zを押してください。

起動のときに指定した TARO.TXT というファイルに、入力した文字が書き込まれました。

```
かきくけこ  
[End of file]  
  
Buffer: TARO.TXT          | カナ漢字 | Write | Insert | Forward  
2 lines written to file TARO.TXT;1  
$ █
```

ローマ字とカナのどちらで入力しますか

ローマ字とカナの両方で入力してみました。これからは、入力しやすい方を選んでモードを切り替えて入力するようにしましょう。ローマ字とカナのどちらの方が入力しやすいですか。入力しやすい方を選んでください。

決まったら下記の表に従って、次の章へ進んでください。

ローマ字で入力する方 第2章へ

カナで入力する方 第3章へ



変換キーパッドの再設定

《編集作業中に変換キーパッドを変更するには》

初期画面で設定したキーパッドは、次の起動からずっと反映されます。ただし、SET KEYPAD コマンドを使えば、1 度設定したあとでも編集画面が表示されているときに変換キーパッドを変更できます。

日本語 EVE を起動して初期画面が表示されなかったときや、あとからキーパッドを変更したいときには次の操作を実行してください。

1. **[Do]**キーを押して、Command: プロンプトを表示させる。
2. Command: プロンプトに、SET KEYPAD TARO と入力する。

```
TAROキーパッドへ  
[End of file]  
  
Buffer: *MAIN | 変換 | Write | Insert | Forward  
Command: SET KEYPAD TARO
```

3. **[Return]**キーを押す。



バッファについて

日本語 EVE を使って文書を編集している間、入力している文字はバッファと呼ばれる内部処理用のメモリに書き込まれています。このメモリは、日本語 EVE で編集している間に限って有効な、一時的な記憶領域です。したがって、日本語 EVE を終了するときに、編集内容をファイルに保存しないと、バッファに書かれた内容は消えてしまいます。

《起動時にファイル名を指定した場合》

[Ctrl/Z]キーを押してください。

日本語 EVE を起動する際に、\$ EDIT/XTPU TARO.TXT などのようにファイル名を指定した場合は、**Ctrl/Z**を押して終了するときに、指定したファイルにバッファの内容が書き込まれます。

《起動時にファイル名を指定しなかった場合》

Ctrl/Zキーを押したあと、ファイル名を入力してください。

ファイル名を指定しないで日本語 EVE を起動した場合、テキスト・ウィンドウに文字を入力して、**Ctrl/Z**キーを押すと、コマンド・ウィンドウに"MAIN バッファのファイル名を入力してください (キャンセル → RETURN)："というプロンプトが表示されます。

```
TAROキーパッドへ
[End of file]

Buffer: MAIN | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
MAIN バッファのファイル名を入力してください (キャンセル → RETURN) :
1 line read from file ABC$: [HOHOHO]JEVE$CNVKEY.DAT;1
```

プロンプトに続けてファイル名を入力し、**Return**キーを押してください。指定したファイルにバッファの内容が書き込まれます。

文字を入力しましょう（ローマ字入力の場合）

ローマ字漢字モードで入力します

日本語 EVE を起動したら，モードがローマ字漢字モードになっているかを確認してください。カナ表示ランプが点灯していたら，**[カナ]**キーを押して解除します。

2.1 ひらがな

[K][U][R][U][M][A]と入力してください。入力文字列は，ひらがなに変換されて表示されます。



入力文字列はアンダーラインの引かれた状態になります。

この状態では，変換は確定されていません。**[Return]**キーを押してください。変換が確定され，アンダーラインは消えます。もう1度，**[Return]**キーを押して改行してください。

2.2 カタカナ

S U K I -と入力してください。画面上には、"すきー"と表示されます。



入力文字列はアンダーラインの引かれた状態になります。F12キーを押してください。文字がカタカナに変換されます。



"スキー"が反転表示されています。ここで、Returnキーを押して変換を確定します。


```
くるま
スキー
[End of file]

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
```

もう1度、Returnキーを押して改行してください。

2.3 半角カタカナ

S U K I -と入力してください。画面上には、"すきー"と表示されます。

```
くるま
スキー
すきー
[End of file]

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
```

入力文字列はアンダーラインの引かれた状態になります。F13キーを押してください。文字が半角カタカナに変換されます。

```
くるま
スキー
スキー
[End of file]

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
```

半角の "スキー" が反転表示されています。ここで、`[Return]` キーを押して変換を確定します。

```
くるま
スキー
スキー
[End of file]

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
```

もう1度、`[Return]` キーを押して改行してください。

2.4 英字

`[T][E][N][N][I][S]` と入力してください (大文字の入力は、`[Lock]` キーを押してから入力するか、または `[Shift]` キーを押しながら入力してください)。画面上には、"てんいS" と表示されます。

```
くるま  
スキー  
スキー  
てんいS  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward

入力文字列はアンダーラインの引かれた状態になります。**F14**キーを押してください。全角の英字に変換されます。

```
くるま  
スキー  
スキー  
TENNIS  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward

全角の "T E N N I S " が反転表示されています。ここで、**Return**キーを押して確定します。改行のために、**Return**キーをもう1度押します。

再び**T E N N I S**と入力してください。

```
くるま  
スキー  
スキー  
TENNIS  
てんいS  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward

ここで、**F14**キーを押してから**F13**キーを押してください。半角の英字に変換されます。

```
くるま  
スキー  
スキー  
TENNIS  
TENNIS  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward

半角の "TENNIS"が反転表示されています。

反転表示の状態の文字は、**F11**、**F12**、**F13**、**F14**キーを押して、何度でも変換できます。何度か押してみて確認してください。

最後に**F14**キーを押してから**F13**キーを押して半角に戻し、**Return**キーを押して変換を確定します。

```
くるま  
スキー  
スキー  
TENNIS  
TENNIS  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward



半角文字の入力

[F13]キーでの半角変換は、反転表示の文字がひらがなまたはカタカナの場合は半角カタカナとなり、英字の場合は半角英字となります。

文字を入力しましょう（カナ入力の場合）

カナ漢字モードで入力します

日本語 EVE を起動し、カナ漢字モードに切り替えてください。**[カナ]**キーを押してカナ表示ランプを点燈させてから入力を始めます (カナ表示ランプが付いていないキーボードもあります)。

3.1 ひらがな

[ク]**[ル]****[マ]**と入力します。入力文字列は、ただちにひらがなに変換されて表示されます。



入力文字列はアンダーラインの引かれた状態になります。

この状態では、変換は確定されていません。**[Return]**キーを押してください。変換が確定され、アンダーラインは消えます。もう1度、**[Return]**キーを押して改行してください。

3.2 カタカナ

図 10-1 と入力してください ([-] は、[Tab] キーの上、または JIS 配列の場合の <[X] キーの左にあるキーです)。画面上には、"すきー" と表示されます。



入力文字列はアンダーラインの引かれた状態になります。[F12] キーを押してください。文字がカタカナに変換されます。



"スキー" が反転表示されています。ここで、[Return] キーを押して変換を確定します。


```
くるま
スキー
[End of file]

Buffer: SAMPLE.TXT | カナ漢字 | Write | Insert | Forward
```

もう1度、`[Return]`キーを押して改行してください。

3.3 半角カタカナ

`⌘` `⌘` `⌘`と入力してください (`⌘`は、`[Tab]`キーの上にあるキーです)。画面上には、"すきー"と表示されます。

```
くるま
スキー
すきー
[End of file]

Buffer: SAMPLE.TXT | カナ漢字 | Write | Insert | Forward
```

入力文字列はアンダーラインの引かれた状態になります。`[F13]`キーを押してください。文字が半角カタカナに変換されます。



半角の "スキー" が反転表示されています。ここで、`[Return]` キーを押して変換を確定します。



もう1度、`[Return]` キーを押して改行してください。

3.4 英字



カナ漢字モードで英数字を入力するときには

カナ漢字モードで英字や数字を入力するときには、`[カナ]` キーを押してカナ表示ランプを消してください。

T E N N I Sと入力してください(大文字の入力は、**Lock**キーを押してから入力するか、または**Shift**キーを押しながら入力してください)。画面上には、"TENNIS"と半角で表示されます。

```
くるま  
スキー  
スキー  
TENNIS  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | カナ漢字 | Write | Insert | Forward

入力文字列はアンダーラインの引かれた状態になります。ここで、**Return**キーを押して確定します。もう1度、**T E N N I S**と入力してください。

```
くるま  
スキー  
スキー  
TENNIS  
TENNIS  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | カナ漢字 | Write | Insert | Forward

"TENNIS"を全角に変換します。入力文字列は、アンダーラインの引かれた状態になります。**F14**キーを押してください。

```
くるま  
スキー  
スキー  
TENNIS  
TENNIS  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | カナ漢字 | Write | Insert | Forward

全角の "T E N N I S "が反転表示されています。

反転表示の状態の文字は、**F11**，**F12**，**F13**，**F14**キーを押して、何度でも変換できます。何度か押してみても確認してください。

最後に**F14**キーを押して全角に戻し、**Return**キーを押して変換を確定します。

```
くるま  
スキー  
スキー  
TENNIS  
T E N N I S  
[End of file]
```

Buffer: SAMPLE.TXT | カナ漢字 | Write | Insert | Forward



半角文字の入力

[F13]キーでの半角変換は、反転表示の文字がひらがなまたはカタカナの場合は半角カタカナとなり、英字の場合は半角英字となります。

漢字に変換しましょう

「かんじ」と読む漢字は、簡単に思いつくものだけでも「漢字」、「感じ」、「幹事」などがあります。このため、1回の変換では出したい漢字に変換されないことがよくあります。この章では、変換キー(スペース・バー)を使って漢字に変換する方法と、変換の候補となる同音異義語の中から、希望の漢字を選択する方法について説明します。

4.1 「かんじ」「漢字」「感じ」に変換する

まず、「かんじ」と入力してください。



《入力するキー》

ローマ字漢字モード **K A N N J I**

"ん"は、Nを2回入力します。

カナ漢字モード **カ シ シ**

かんじ■

変換キー (スペース・バー) を押してください。

漢字

"かんじ"が"漢字"に変換され、反転表示された状態になります。

注意

漢字変換の結果は、ユーザの個人辞書によって、若干異なります。
したがって、必ずしも変換結果が例のとおりになるとは限りませんので、
ご注意ください。

4.2 変換候補群の中から選びましょう

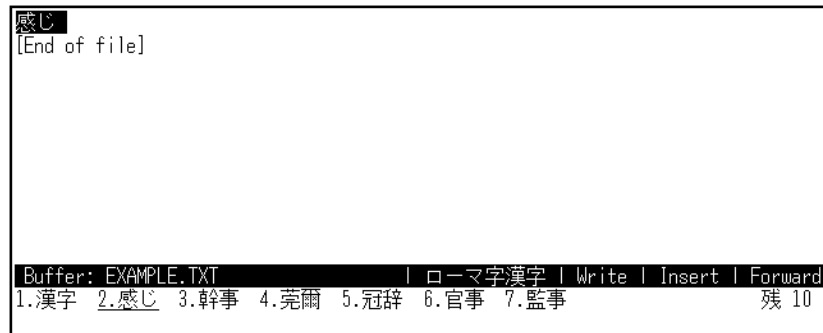
画面下に表示される候補群の中から、特定の漢字を選ぶ方法を説明します。

例文として、もう1度"かんじ"を入力します。変換キー (スペース・バー) を2回
押すと、"漢字"から"感じ"に変換されます。

感じ

ここで、画面下のほうに注目してください。

変換キーを2回以上押すと、画面下のほうには、同音異義語がいくつか、変換の候補として表示されます。これらの漢字を変換候補群といいます。現在反転表示されている候補の漢字に、アンダー・ラインが引かれています。



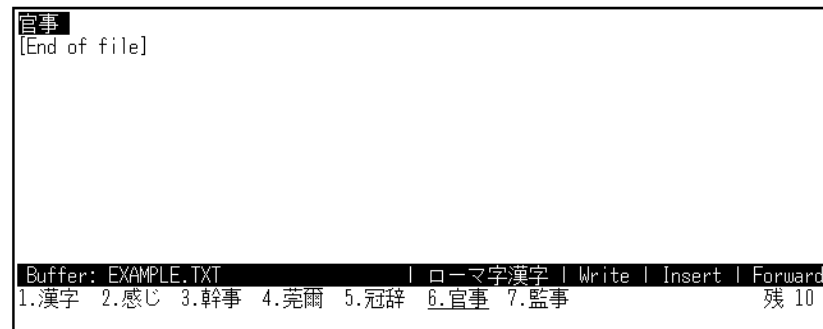
変換候補群の中から漢字を選択してみましょう。

変換候補群の中から目的の漢字を選択するには、次の2通りの方法があります。
それぞれの方法で"官事"に変換してみましょう。

a. スペース・バーを押す

変換したい漢字が表示されるまで、スペース・バーを押し続ける方法です。

アンダーラインのある候補から数えて、"官事"は4つめにあります。4回スペース・バーを押すと、"官事"が反転表示された状態になります。Returnキーを押して変換を確定します。





スペース・バーを押しすぎたときには

ひとこと

スペース・バーを押しすぎてしまったとき，1 つ前の候補の漢字を選択するには，キーを押します。

b. 番号を入力する

変換したい漢字の前についている番号の数字キーを押す方法です。

番号を押すと，ただちに変換がその漢字に確定され，画面下部の候補群は消えます。選択すると同時に確定するために，キーを押す必要はありません。



変換候補がたくさんあるときには

ひとこと

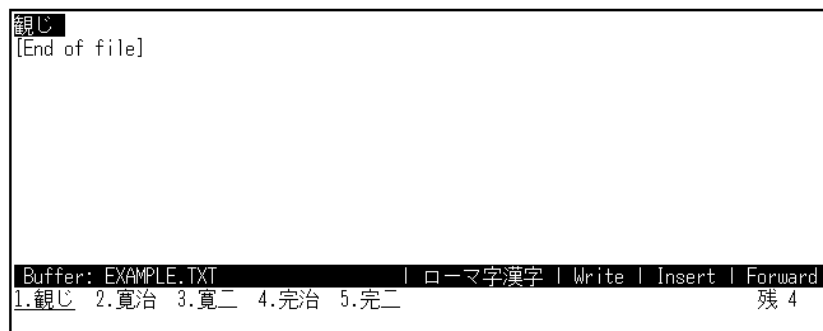
候補の漢字がたくさんあるため，欲しい漢字がなかなか出てこないときがあります。

そのようなときには，キーを押して次の変換候補群を表示させます。キーを押せば，前の変換候補群を表示させることができます。

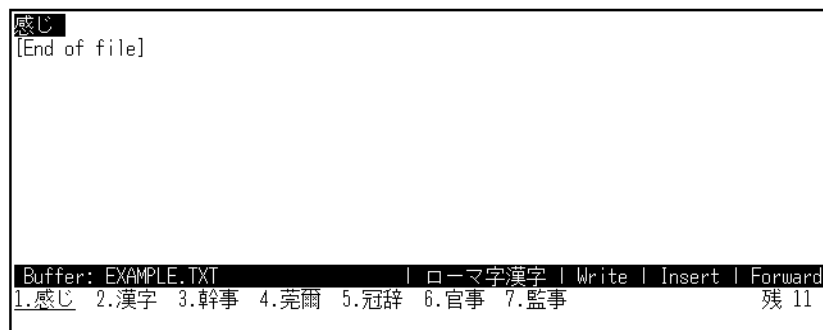
そのあとで，上記の a または b の方法を使って希望の漢字に変換してください。

"かんじ"の変換候補群を使って説明します。

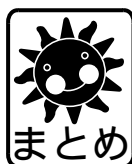
Next Screen キーを押してみます。次の変換候補群の画面がでます。



Prev Screen キーを押して、前の変換候補群に戻します。



文章の作成例（入門編のまとめ）



まとめ

簡単な文章を入力して，変換の復習をしてみましょう。日本語 EVE の便利な機能も簡単に紹介します。

次のような文章を作成しましょう。

誕生日おめでとう

プレゼントに、花の図鑑を贈ります。

今度、理英ちゃんと３人で、PARTYをしましょう。

たまみ

準備

日本語 EVE を起動する前に，DCL プロンプト (\$) に続けて次のコマンドを実行してください。

```
$ COPY XTPU$EXAMPLES:JEVE$INIT_V3.EVE SYS$LOGIN:
```

行ごとに説明します。1文節ずつ入力していきましょう。

1 行目 – "誕生日おめでとう "

まず "たんじょうび" を入力してスペース・バーで変換させます。続けて "おめでとう" と入力して、**[Return]** キーを 3 回押します。

"誕生日 " スペース・バーを 1 回押すだけで正しく変換できます。変換できた後に続けて入力するときには、確定のための **[Return]** キーを押さなくても自動的に変換が確定されます。

[Return] キーを 3 回押す "おめでとう" の確定と、改行して 1 行空けるためです。

2 行目 – "プレゼントに、花の図鑑を贈ります。 "

"ぶれぜんと" を入力して **[F12]** キーでカタカナに変換します。続けて、"に" を入力します。読点は、モードによって入力するキーが異なります。

読点 (、) ローマ字漢字モードで読点を入力するには **[,]** を、カナ漢字モードでは **[Shift/ネ]** を入力します。付録 B の図 B-3、図 B-4 モード別変換対応表を参照してください。 **[,]** で正しく読点が入力できないときには、この章の最初にある準備に示された操作を行ってから日本語 EVE を再起動してください。

次に、"はな" と "の" をそれぞれ入力して変換します。そして、"ずかん" を変換して、"を" を入力します。

"を " ローマ字漢字モードでは **[W]** **[O]** と入力します。付録 B の図 B-1、図 B-2 のローマ字かな変換対応表を参考にしてください。

"おくります" を入力してスペース・バーで変換します。1 回で変換できないときには、変換候補群の中から選んでください。続けて句点を入力します。

句点 (。) モードによって入力するキーが異なります。ローマ字漢字モードでは[.]を、カナ漢字モードでは[Shift/ル]を入力します。[.]で正しく読点が入力できないときには、この章の最初にある準備に示された操作を行ってから日本語 EVE を再起動してください。

確定したら、[Return]を2回押して1行空けてください。

3行目 - "今度、理英ちゃんと3人で、PARTYをしましょう。"
"こんど、"と入力してスペース・バーで変換します。

次に"理英"ですが、この字は"りえ"を変換しようとしても、辞書にないので変換できません。

"理英" このようなときは"理英"を新しく個人辞書に登録すれば、変換できるようになります。ここではとりあえず、"理英"を"り"と"えい"に分けて1文字ずつ変換し、表示させます。

《操作方法》

1. "り"を"理"に変換します
"り"と入力してからスペース・バーを押し、変換候補群の中から選んでください。
2. "えい"を"英"に変換します。
"えい"と入力してからスペース・バーを押し、変換候補群の中から選んでください。

これでやっと"理英"とできましたね。これではいつも"理"と"英"に分けて、"理英"を入力するので大変です。でも、日本語 EVE の便利な機能を使って簡単に"理英"と入力できるようになります。この章の最後を見てください。

"ちゃんと"と入力し、続けて"3にん"を入力します。

"3人" ローマ字漢字モードで数字を入力するには、そのまま[3]を入力するだけです。カナ漢字モードでは、まず[カナ]キーをOFFにしてから[3]を入力してください。数字と漢字をスペース・バーで一緒に変換することができます。

続けて "で" を入力します。"P A R T Y" は、ここでは全角で入力しています。

"P A R T Y" ローマ字漢字モードの方は、そのまま入力してから **[F14]** キーで変換します。
カナ漢字モードの方は、**[カナ]** キーを OFF にしてから入力して、**[F14]** キーで全角にします。

"をしましょう" を入力して、続けて句点を入力してください。

最後に確定のために **[Return]** キーを押します。その後で **[Return]** を 2 回押して、1 行空けてください。

4 行目 - "たまみ"

"たまみ" は上の文章よりもずいぶん右に寄っていますね。これは、**[Tab]** キーを使います。

"たまみ" **[Tab]** キーを押すと、通常では 8 カラムずつカーソルが右へ移動します。これは 8 カラムごと (8 カラム目、16 カラム目、24 カラム目...) に、タブがセットされているためです。1 ~ 7 カラム目にカーソルがあるときに **[Tab]** キーを押すと 8 カラム目に、9 ~ 15 カラム目にカーソルがあるときには 16 カラム目にカーソルが移動します。たとえば、12 カラム目にカーソルがあるときに **[Tab]** キーを押すと、16 カラム目にカーソルが移動します。適切な位置になるまで **[Tab]** キーを押してから "たまみ" と入力し、**[Return]** キーで確定します。



ひとこと

"理英" を個人辞書に登録しましょう

日本語 EVE の ENTER TANGO コマンドを使います。このコマンドは、人名のように変換されにくい単語などを簡単な読み方で登録して、変換の効率をあげるのに役立ちます。

《操作方法》

1. "理英" を **[Select]** キーで選択します

"理" までカーソルを移動させ、**[Select]** キーを押します。

☐キーを2回押して"理英"を選択します。すると"理英"が反転表示されます。

2. ☐キーを押します

ステータス・ラインの下に Command: というプロンプトが表示されます。

3. "ENTER TANGO"と入力して、☐キーを押します

カナ入力を行っているときには1度☐キーを押してカナ入力を OFF にしてから、ENTER TANGO と入力します。

```
誕生日おめでとう
プレゼントに、花の図鑑を贈ります。
今度、理英ちゃんと3人で、PARTYをしましょう。

                                     たまみ
[End of file]
Buffer: TAMAMI.TXT                | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
Command: ENTER TANGO
カーソルを動かして、テキストを SELECT してください
```

4. 登録する単語の読みを入力します

```
Buffer: TAMAMI.TXT                | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
登録する単語の読み: りえ
```

"りえ"と入力し☐キーで確定し、もう1度☐キーを押してください。

```
Buffer: TAMAMI.TXT                | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
'理英' has been added to a dictionary as 'りえ'
```

これで、"理英"が"りえ"という読みで登録できました。この次から"りえ"の変換候補群の中に"理英"も入っています。

第2部

実践編

複文節変換，文節の拡大/縮小，入力文字の修正方法など，エディタに慣れたユーザが日本語入力を行う際に，便利な機能について説明します。

漢字かな交じり文に変換しましょう

この章では、文章を一気に変換させる方法を説明します。

今まで学んだ変換は、1文節の単語の変換でした。2文節以上の文章も、同じように変換キー（スペース・バー）を使って変換します。1回の変換で期待した変換結果が得られなかった場合は、文節ごとに再変換したり部分確定したりすることができます。

6.1 複文節の変換

次の例文の変換してみましょう。



《例文の入力》

例文として、次の文章を入力してください。

かれきもやまのにぎわい■

1. 変換キー（スペース・バー）を押します

次のように変換されます。

枯れ木も山の賑わい■

2. Returnキーを押します

変換を確定します。

枯れ木も山の賑わい■

この例文は，1 回の変換で出したい漢字がでました。このようなときには，**Return** キーで変換を確定します。1 回の変換で期待した変換結果が得られないときには，次の節を参照してください。

6.2 部分確定

入力した文字の中に，同音異義語を持っている漢字があると，1 回の変換では期待した変換結果が得られないことがあります。このようなときには，1 文節ごとに，再変換して確定していきます。

また，漢字に変換されてしまった字を，ひらがなやカタカナに再び変換したいときも，同じ方法を使います。

複文節変換のときには，変換の対象となる文節が反転表示されます。文節が期待したとおりに区切られない場合は，第 7 章を参照してください。



《例文の入力》

例文として，次の文章を入力してください。

かえるのこはかえる■

変換キー（スペース・バー）を押すと，次のように変換されます。

蛙の子は帰る

この変換では，"蛙"と出したかったのに，文末が"帰る"と変換されています。

《操作方法》

つぎに、複文節を再変換する方法について説明します。

1. "蛙の"と"子は"を部分確定します

"蛙の"が反転表示されている状態で、☐キーを押します。

蛙の子は帰る

"蛙の"が確定し、次の文節"子は"が反転表示されます。

蛙の**子は帰る**

同じように☐キーで、"子は"を確定します。

蛙の子は**帰る**

"帰る"が反転表示されています。

2. "帰る"を"蛙"に変換し直します

"帰る"が反転表示されているときに、スペース・バーを何度か押して"蛙"に再変換します。

蛙の子は**蛙**

3. 最後にキーで確定してください

蛙の子は蛙

文節を拡大 / 縮小しましょう

複文節を変換したときに、文節の切れ目が期待したとおりに区切られず、予想外の変換結果になることがあります。このようなときは、**[]**、**[]**キーを使って文節の切れ目を変更し、変換結果を訂正することができます。

たとえば「そばろ煮」が「祖母ろに」に変換されてしまうような場合です。これは「そばろ」をひとつの文節として、日本語 EVE が変換しなかったためです。この章では、**[]**、**[]**キーを使って文節を拡大/縮小し、正しく変換する方法について説明します。

7.1 文節の拡大

文節を拡大するには、**[]**キーを使用します。

例文で練習してみましょう。



《例文の入力》

例文として、次の文章を入力してください。

ならうはいっしょう■

スペース・バーを押して変換させます。

なら鵜は一生■

"習うは一生"と変換したかったのですが、"なら鵜は一生"というおかしな変換になりました。文節を訂正して、正しく変換しましょう。

注意

変換の結果は、ユーザの個人辞書によって若干異なります。必ずしも、変換結果が例文のとおりになるとは限りませんので、ご注意ください。

《操作方法》

1. ☐キーで、反転表示の部分を"なら"から"ならう"まで広げます
文字列すべてがひらがなに変わります。反転表示の部分が1つ長くなって、"ならう"が反転表示されます。

ならうはいっしょう■

2. "ならう"を"習う"に変換します
"習う"が反転表示されている状態で、スペース・バーで変換します。

習う派一生■

☐キーで次の文節に移動します。

3. "派"を"は"に変換します
"習う"を変換したときに、"は"も一緒に漢字に変換されてしまいました。これをひらがなに戻します。

習う**派**一生■

"派"が反転表示されている状態で、**F11**キーでひらがなに変換します。

習うは一生■

□キーで次の文節に移動します。

4. [Return]キーで確定します

"一生"は正しく変換されているので、[Return]キーで全文を確定します(□キーで確定することもできます)。

習うは一生■

7.2 文節の縮小

文節を縮小するには、□キーを使用します。



《例文の入力》

例文として次の文を入力します。

好きこそもののじょうずなれ■

スペース・バーを押して変換します。

好きこそも野の上手鳴れ■

画面に注目してください。今、反転表示されている部分は、"好きこそ"です。これを1文節として日本語EVEが判断しているため、次の文節が"野の"というおかしい変換になってしまいます。

そこで"好きこそ"の文節を短くして、"好きこそ物の上手なれ"と正しく変換させましょう。

注意

変換の結果は、ユーザの個人辞書によって若干異なります。必ずしも、変換結果が例のとおりになるとは限りませんので、ご注意ください。

《操作方法》

1. ☐キーを押します

文字列すべてがひらがなに変わります。反転表示の部分が1つ短くなって、"すきこそ"が反転表示されます。

すきこそもののじょうずなれ

2. "すきこそ"をスペース・バーで変換します

好きこそ物の上手鳴れ

"ものの"以下も、自動的に変換されます。☐キーで、"物の"と"上手"を確定し、"鳴れ"に移動します。

好きこそ物の上手鳴れ

"鳴れ"を☐F11キーでひらがなに変換します。

好きこそ物の上手なれ

3. ☐Returnキーで確定します

好きこそ物の上手なれ

7.3 カーソルが進み過ぎたときは

□, □キーを使って文節の長さを変えるときに, ついっかかりカーソルを押しすぎてしまうことがあります。カーソルを戻すことは簡単です。

□キーを使ってカーソルを戻す

第 7.1 節 "文節の拡大" では, 反転表示の部分を "なら" から "ならう" にしようとしています。ところが, □キーを押しすぎて反転表示の部分が "ならうはい" まで長くなってしまいました。

ならうはいっしょう■

□キーを 2 回押して反転表示を "ならう" まで短くします。

ならうはいっしょう■

□キーを使ってカーソルを戻す

第 7.2 節 "文節の縮小" では, 反転表示の部分を "すきこそも" から "すきこそ" にしようとしています。

ところが, □キーを押しすぎて "すき" までカーソルが進んでしまいました。

すきこそもののじょうずなれ■

□キーを 2 回押して反転表示を "すきこそ" まで長くします。

すきこそもののじょうずなれ■

入力を間違えたときには

この章では、入力中または変換の途中にタイプミスに気づいたときの修正の方法を説明します。



《例文の入力》

さるのきからおちる■

入力した直後の、スペース・バーを押す前の状態です。
本当は、"さるもきからおちる"と入力するところを、"さるのきからおちる"と入力してしまった例です。

《訂正する箇所》

"の" "も"に入力し直します。

訂正の方法には、次の2種類があります。

1. 入力中のアンダーラインが引かれている状態で訂正する
2. 変換後確定する前に訂正する

入力中に訂正しましょう

入力途中のアンダーラインが引かれている状態で修正します。

1. ☐キーで、"き"の上にカーソルを移動させます

さるの~~き~~からおちる

2. ☐で、"の"を削除します

さる~~の~~からおちる

3. "も"と入力します

さるも~~の~~からおちる

変換キー(スペース・バー)を押して文章を変換します。"猿も"を確定して、"きから"へ移動します。

4. "機"から"を"を"木"から"に変換します

猿も~~機~~から落ちる■

"機"から"が"が反転表示されている状態で、変換キー(スペース・バー)を押します。

猿も~~木~~から落ちる■

5. ☐キーで確定します

"落ちる"は正しく変換されていますので、全文を確定します。

猿も木から落ちる■

スペース・バーを押してから訂正してみましょう

例文を入力してから、変換キー（スペース・バー）で変換してください。次のように変換されます。

~~去る~~軒から落ちる■

この状態で、<⌫を押してください。すると、文字が変換する前のアンダーラインのある状態に変わります。

さるの~~き~~からおちる

<⌫を押してからの訂正の方法は、"入力中に訂正しましょう"と同じです。

半角英数字を入力するには

ローマ字漢字モードやカナ漢字モードでも、半角英数字を入力することはできません。けれども、プログラムなど、半角英数字をたくさん入力するときには、**[F13]**キーや**[カナ]**キーを入力の際に押すのでは大変面倒です。このようなときには、半角英数モードにして入力すると便利です。

9.1 半角英数モード

入力する文字はすべて半角になるモードです。変換対象にはなりませんので、日本語入力はできません。

"GOOD"と入力してみましょう

1. 半角英数モードに設定します

ステータス・ラインに "半角英数" と表示されるまで **[F10]** キーを押してください。カナ表示ランプが点灯していたら、**[カナ]** キーを押して消してください。



2. **G O O D**と入力します

大文字は**Lock**キーを押してから入力するか、または**Shift**キーを押しながら入力してください。



入力文字を見てください。変換の対象にはならないのでアンダーラインは引かれませんが。確定のために**Return**キーを押す必要はありません。

第3部

応用編

記号，コード，罫線など文書作成に便利な機能について説明します。

10

記号とコードを入力してみましょう

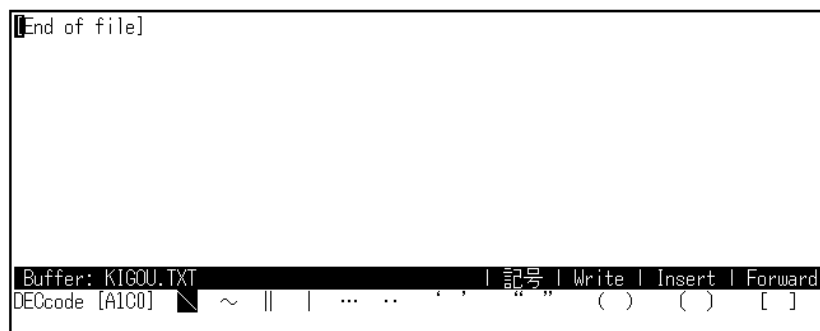
10.1 記号モード

§ や などの記号を入力するモードです。画面の下の方に表示される DEC 漢字コード一覧表の中から記号を選択します。

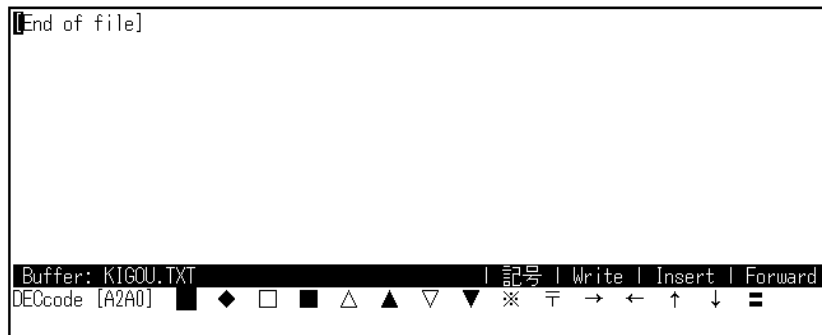
"〒"を入力してみましょう

《操作方法》

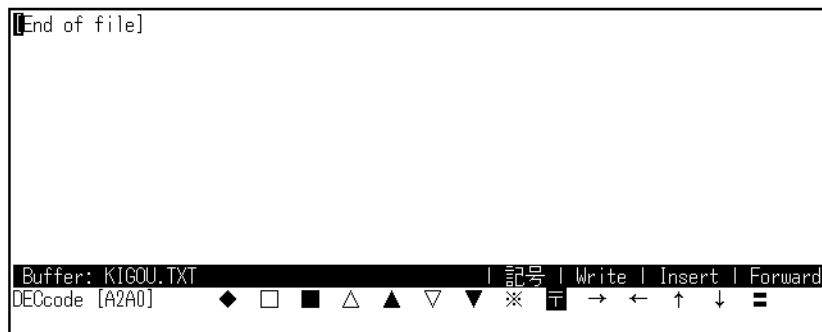
1. **[F10]**キーで、ステータス・ラインの表示を "記号" にします
ステータス・ラインに "記号" と表示されるまで **[F10]** キーを押してください。カナ表示ランプが点灯したままだかまいません。
コマンド・ウィンドウに、DEC 漢字コード表が 1 行ずつ表示されます。



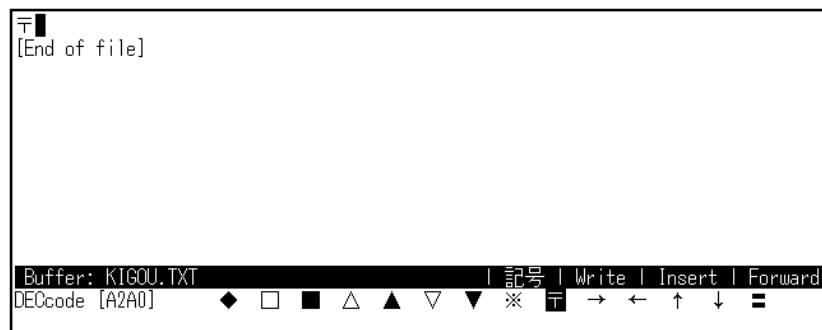
2. **Next Screen** キーを 4 回押して, "〒"を探します
 押しすぎたときには, **Prev Screen** キーを押して前の画面に戻します。



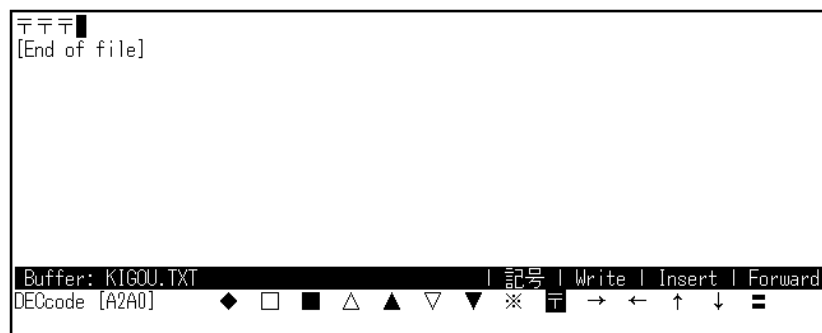
3. **□**キーで, カーソルを "〒"の上に移動させます
□, **□**キーを使って, 入力したい記号の上にカーソルを移動させてください。



4. **Return**キーまたは**Select**キーを押して "〒"を入力します
 カーソルの位置に "〒"が入力されます。続けて, 別の位置に記号を入力したい時には, 第 12 章の "表の中に ・ ×を書きましょう"を参照してください。



[Return]キーを押した数だけ"〒"が表示されます。数回押してみてください。入力と同時に確定されるので、確定のための**[Return]**キーは必要ありません。



5. 記号の入力が終わったら**[F10]**キーで、はじめのモードに切り替えてください
再度記号モードに切り替えると、前回の記号モードまたはコード・モード終了時と同じラインが表示されます。**[PF1]** + **[]**で一覧表の先頭に、**[PF1]** + **[]**で最後に移動できます。

10.2 コード・モード

記号や文字をコード番号で入力するモードです。変換したい記号や文字のコード番号がわかっている場合には便利です。コード番号は、「漢字コード表」で調べることができます。

"兀"と入力してみましょう

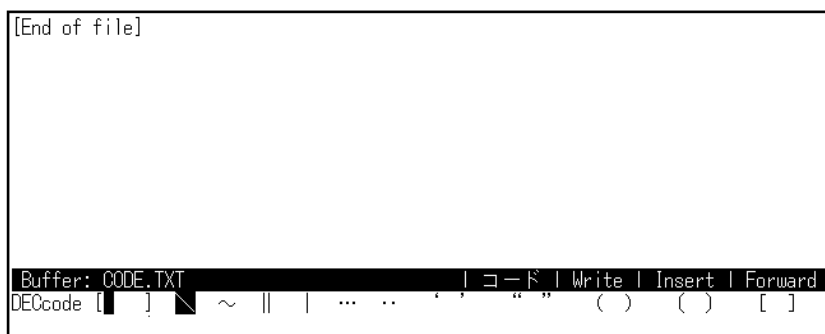
《操作方法》

まず、「漢字コード表」で、表示させたい文字のコードを調べます。"兀"のコード番号は、D1BA です。

1. **[F10]**キーで、ステータス・ラインの表示を"コード"にします
2. "兀"を入力したい位置にカーソルを移動しておきます

画面の下の表示は、記号モードと似ていますが、コード・モードでは[]は空白です。カナ表示ランプが点灯しているときは、**[カナ]**キーを押して解除してください。

コマンド・ウィンドウに、DEC 漢字コード表が1行ずつ表示されます。



3. "兀"のコード， D1BA を[]内に入力します
画面下の表示は， "兀"のあるラインに変わり，カーソルが "兀"の位置に移動します。

```
[End of file]

Buffer: CODE.TXT          | コード | Write | Insert | Forward
DECcode [D1B0]  儘 儕 儻 儻 儻 儻 儻 儻 儻 儻 兀 兎 兎 兎 兎 兎
```

このとき[]内には，コマンド・ウィンドウに表示される左端の文字のコードが表示されるようになっています。そのため，入力したコードと異なっている場合でも，入力される文字はカーソルの置かれている文字です。

4. ReturnキーまたはSelectキーを押して "兀"を入力します
Returnキーで入力すると， "兀"を入力した後ローマ字漢字モードに切り替わります。

```
兀 [End of file]

Buffer: CODE.TXT          | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
```

入力と同時に確定されるので，確定のためのReturnキーは必要ありません。Selectキーで入力すると，コード・モードを終了せずに "兀"を何度でも入

力できます。Selectキーで入力したときには、F10キーで、はじめのモードに切り替えてください。

続けて、別の位置に記号を入力したい時には、第 12 章の "表の中に ・ × を書きましょう" を参照してください。

再度コード・モードに切り替えると、前回の記号モードまたはコード・モード終了時と同じラインが表示されます。PF1 + □ で一覧表の先頭に、PF1 + □ で最後に移動できます。

罫線を引いてみましょう

日本語 EVE では、罫線機能が使えます。

罫線機能には、次の 2 つのモードがあります。

- ・罫線モード
- ・箱モード

《操作方法》

1. 日本語 EVE を起動して DRAW KEISEN コマンドを実行します

Dキーを押し、Command: プロンプトに対して DRAW KEISEN と入力し、**Return**キーを押してください。

ステータス・ラインが次のように変わり、カーソル位置に矢印が表示されます。



2. 罫線モードを抜ける

罫線モードを抜けて編集画面に戻るには、**[Return]**キーを押してください。ローマ字漢字モードに戻ります。

罫線モードのステータス・ラインについて説明します。

【罫線モード】

□□□□を使用して、任意の方向に罫線を引くことができます。

移動[描線] **SELECT**

[Select]キーを使用して、移動/描線を切り替えます。**[移動]**を選択すると、罫線を引かずにカーソルを移動できます。**[描線]**を選択すると、カーソルを移動して罫線を引くことができます。

太[細]消 **INSERT**

[Insert Here]キーを使用して、罫線の種類を指定できます。**[太]**を選択すると太い罫線、**[細]**を選択すると細い罫線になります。**[消]**を選択すると、罫線の上をカーソルを動かすことにより、罫線を消去することができます。

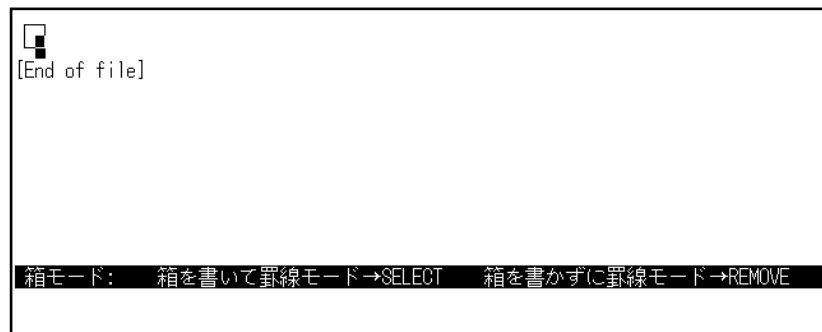
箱 **REMOVE**

[Remove]キーを押すと、罫線モードから箱モードに切り替わります。**[Remove]**キーを押すと、カーソル位置に小さい箱が表示されます。

【箱モード】

□, □, □, □を使用して、この箱を拡大/縮小することができます。

箱の線の太さを変えたいときには、箱モードにはいる前に**[Insert Here]**キーを使用して、罫線の種類を指定できます。



箱を書いて罫線モード SELECT

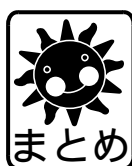
現在表示されている箱を確定してから、再び罫線モードの "移動" に戻ります。カーソルの位置は変わりません。

箱を書かずに罫線モード REMOVE

現在表示されている箱を書き込まずに、再び罫線モードの "移動" に戻ります。カーソルの位置は、箱を書き始めた位置に移動します。

箱モードから、編集画面に切り替えたいときには、`[Return]` キーを押してください。

図表の作成例（応用編のまとめ）



つぎの表を作成して，これまで学んだ機能の復習をしてみましょう。
少し手間がかかりますが，がんばりましょう。

留守番電話 機能比較表

製品名	るすでる	ぴこ	てるぴー
価格	2 9 , 8 円	03 7 , 9 円	06 8 , 0 円
機能 1	×		
機能 2	×	×	

タイトル、項目を入力する

1. タイトルの入力

2行あけて、3行目にタイトルを入力します。2行あけるのは、後で箱を書くためです。まず、"留守番電話"と入力し、2カラム移動して"機能比較表"と入力します。確定したら、`[Return]`キーを3回押して、製品名の行との間に2行あけます。2行あけるのは、後で箱を書くためです。

```
留守番電話 機能対応表
[End of file]
```

2. 製品名の入力

表の1行目には製品名が入ります。"製品名"と入力してから2カラム移動して、"るすでる"、4カラム移動して"ぴこ"、4カラム移動して"てるぴー"と入力します。カラム数を空けて入力するのは、出来上がりをきれいにするためです。確定したら、`[Return]`キーを2回押して1行あけます。1行あけるのは、後で罫線を書くためです。

```
留守番電話 機能対応表
製品名   るすでる   ぴこ   てるぴー
[End of file]
```

3. 価格の入力

表の2行目には価格が入ります。"価格"と入力してから、4カラム移動して"29,000 円"、2カラム移動して"37,900 円"、2カラム移動して"68,000 円"と入力します(このとき、数字は半角で入力してください)。カラム数を空けて入力するのは、上段とそろえるためです。確定したら、`[Return]`キーを2回押して1行あけます。

留守番電話 機能対応表

製品名 るすでる ぴこ てるびー

価格 29,000円 37,900円 68,000円

■
[End of file]

4. 機能 1 と機能 2 の入力

表の 3, 4 行目には機能が入ります。"機能 1"と入力し, 1 行あけて "機能 2"と入力します。

留守番電話 機能対応表

製品名 るすでる ぴこ てるびー

価格 29,000円 37,900円 68,000円

機能 1

機能 2 ■
[End of file]

表中の ・× は, 線を引いた後で入力します。

文字をセンタリングする

日本語 EVE の CENTER LINE コマンドを使用します。このコマンドは, 行を左右マージンの中央に移動します。行頭にはスペースが挿入されます。

詳しい説明については『日本語 EVE リファレンス・マニュアル』をお読みください。

1. カーソルをセンタリングさせたい行に移動します (その行内ならどの位置でもかまいません)。
2. **Do** キーを押します。
ステータス・ラインの下に Command: というプロンプトが表示されます。

3. Command: プロンプトに対して CENTER LINE と入力して、`[Return]`キーを押します。

```
留守番電話 機能対応表

製品名   るすでる   ぴこ   てるびー
価格     29,000円  37,900円  68,000円
機能1
機能2
[End of file]
Buffer: RUSUDEN.TXT          | ローマ字漢字 | Write | Overstrike | Forward
Command: CENTER LINE
```

4. 行がバッファの中央に移動します。
カーソルも行と一緒に移動します。

こうして価格の行までをセンタリングさせてください。1度 CENTER LINE コマンドを実行すれば、カーソルを移動して、`[Dn]`キーを2回押すだけでセンタリングされます。

```
留守番電話 機能対応表

製品名   るすでる   ぴこ   てるびー
価格     29,000円  37,900円  68,000円
機能1
機能2
[End of file]
Buffer: RUSUDEN.TXT          | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
前のコマンドを実行しています: CENTER LINE
```

"機能1"と"機能2"は、それぞれ"機"にカーソルを置いてスペース・バーを押し、
"製品名"、"価格"と位置をそろえてください。

太枠の箱を書く

日本語 EVE の DRAW KEISEN コマンドを実行し、箱モードを使用します。さきほどセンタリングした "留守番電話 機能対応表" を、太い枠の箱で囲んでみましょう。

1. カーソルを箱を書き始める位置へ移動します。
ここではカーソルを "留" の上の行の 2 カラム左に置いてください。
2. DRAW KEISEN コマンドを入力します。

```
      留守番電話 機能対応表

      製品名   るすでる   ぴこ   てるびー
      価格     29,000円  37,900円  68,000円
      機能 1
      機能 2
[End of file]
Buffer: RUSUDEN.TXT      | ローマ字漢字 | Write | Insert | Forward
Command: DRAW KEISEN
```

カーソルに矢印があらわれます。

3. **Insert Here** キーを押して、[太]を選択します。 [太]細消 INSERT
4. **Remove** キーを押して、箱モードにします。

```
      留守番電話 機能対応表

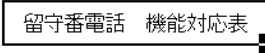
      製品名   るすでる   ぴこ   てるびー
      価格     29,000円  37,900円  68,000円
      機能 1
      機能 2
[End of file]
箱モード:   箱を書いて罫線モード→SELECT   箱を書かずに罫線モード→REMOVE
```

5. □キーでタイトル行が入るところまで、箱を縦に広げます。



留守電話 機能対応表

6. □キーで最後の文字 "表"が入るところまで、箱を横に広げます。



線を引くときには

ひとこと

線はカーソルの矢印 (横線はカーソルの中央、縦線はカーソルの右側) にそって引かれます。矢印が通る位置に文字があると上書きされてしまうので、注意してください。

箱を書き終わったら **Select** キーで箱を確定し、罫線モードに戻ります。

細枠の大きな四角を書く

次に、表を細い枠の箱で囲んでみましょう。"太枠の箱を書く"と同様に、箱モードを使用します。すでに DRAW KEISEN コマンドで罫線モードに入っているのので、カーソルを移動して書き始めます。

1. **Select** キーを押して **[移動]** を選択し、カーソルを箱を書き始める位置へ移動します。ここではカーソルを "製" の左斜め上の 1 カラム左に置いてください。
2. **Insert Here** キーを押して、**[細]** を選択します。

この後は、"太枠の箱を書く" の 4. ~ 6. と同じです。

箱を書き終わったら、続けて横線を入れるので、**Select** キーで箱を確定して罫線モードに戻ってください。

留守番電話 機能対応表

製品名	るすでる	びこ	てるびー
価格	29,000円	37,900円	68,000円
機能1			
機能2			

[End of file]

Buffer: RUSUDEN.TXT | ローマ字漢字 | Write | Overstrike | Forward


横線・縦線を引きましょう

罫線モードを使用します。


1. **Select**キーを押して、[移動]を選択します。カーソルを線を引く位置に移動します。
2. **Select**キーを押して、[描線]を選択します。**Insert Here**キーを押して、[細]を選択します。
3. **□**キーを押して横線を引きます。

製品名	るすでる	びこ	てるびー
価格	29,000円	37,900円	68,000円
機能1			
機能2			

4. **Select**キーを押して、[移動]を選択します。カーソルを2つ下に移動します。
5. **Select**キーを押して、[描線]を選択します。**Insert Here**キーを押して、[細]を選択します。

6. キーを押して横線を引きます。

製品名	るすでる	ぴこ	てるぴー
価格	29,000円	37,900円	68,000円
機能 1			
機能 2			


7. 適当な位置まで線を引くことができたなら、キーで[移動]を選択し、次の線を引く位置までカーソルを移動させます。



ひとこと

罫線モードでカーソルを移動するときには

必ず[移動]を選択してから、カーソルを移動してください。[移動]を選択しないままカーソルを移動させると、不要な罫線が引かれてしまいます。そのときには、第 11 章を参照して消去してください。

以上の操作を繰り返して、それぞれの項目の間に横線と縦線を 3 本ずつ引いてください。線を引き終わったらキーで確定し、罫線モードを終了します。


留守番電話 機能対応表

製品名	るすでる	ぴこ	てるぴー
価格	29,000円	37,900円	68,000円
機能 1			
機能 2			

表の中に ・ × を書きましょう

ステータス・ラインを見てください。Insert と表示されています。これは、現在のバッファが挿入モードであることを示しています(挿入モードは省略時のモードです)。けれども、表の中に文字を書き込むときには、挿入モードでは罫線が動いてしまいます。そこで、重ね書きモード(Overstrike)にしてから、 ・ × を書き込みましょう。

- 重ね書きモード(Overstrike)にします。

キーを押し、Command: プロンプトに対してOVERSTRIKE MODE コマンドを実行します。

ステータス・ラインが、"Insert"から"Overstrike"に変わります。

- ×を入力します。
1. を入力したい位置にカーソルを移動します。
 2. 記号モードになるまで、**F10**キーを押します。
 3. **Next Screen**キーを押して、 を探します。
 4. の上にカーソルを移動します。
 5. **Return**キーで を入力します。

留守番電話 機能対応表			
製品名	るすでる	ぴこ	てるびー
価格	29,000円	37,900円	68,000円
機能1		○■	
機能2			

[End of file]
 Buffer: RUSUDEN.TXT | 記号 | Write | Overstrike | Forward
 DECcode [A1F0] \$ ¢ £ % # & * @ § ☆ ★ ○ ● ◎ ◇
 エコー・モードが ASCII_CHAR にセットされました。

カーソルを移動させて、続けて記号を入力するときには、記号モードのまま補助キーパッドの数字キー (KP1, KP2, KP3, KP5 キー) を使ってカーソルを移動させることもできます。

記号モードのときは、KP1 は□キー、KP2 は□キー、KP3 キーは□キー、KP5 は□キーと同じように、カーソルを動かすことができます。

同様に、×を入力してください。

留守番電話 機能対応表			
製品名	るすでる	ぴこ	てるびー
価格	29,000円	37,900円	68,000円
機能1	×■	○	○
機能2			○

[End of file]

Buffer: RUSUDEN.TXT | 記号 | Write | Overstrike | Forward

DECcode [A1D0] { } < > 《 》 「 」 『 』 【 】 + - ± ×

エコー・モードが ASCII_CHAR にセットされました。

入力が終わったらF10キーを押して元のモードに戻します。再び挿入モードにするには、INSERT MODE コマンドを入力してください。

変換キーのまとめ

表 A-1 ひらがな・カタカナ・英字の変換に使用するキー

キー	機能	説明
Return	確定	変換が正しく行われた後に押して、変換を確定する。
F10	文字入力モード切り替え	次のモードに切り替える。下記の順序で切り替わる。
ローマ字漢字 カナ漢字 半角英数モード 記号 コード		
F11 , ひらがな	ひらがな変換	ひらがなに変換する (全角変換)。
F12 , カタカナ	カタカナ変換	カタカナに変換する (全角変換)。
F13	半角変換	半角英数または半角カタカナに変換する。漢字は半角に変換することはできない。
F14	全角変換	全角英数に変換する。

表 A-2 漢字の変換に使用するキー

編集キー	機能	説明
変換キー (スペース・バー) , 変換	a. 漢字変換 b. 次候補の選択	a. 漢字カナ交じりの文章に変換する。2 回以上押すと画面下部に変換の候補となる文字 (変換候補群) を表示する。 b. 変換候補群の中から、下線のある候補の右となりの候補を選択する。

(次ページに続く)

表 A-2 (続き) 漢字の変換に使用するキー

編集キー	機能	説明
<input type="button" value="Return"/>	確定	変換が正しく行われた後に押して、変換を確定する。
<input type="button" value="◀"/> , <input type="button" value="前候補"/>	前候補の選択	画面下部に表示される変換候補群の中の、下線のある候補の左となりの候補を選択させる。
<input type="button" value="Prev Screen"/> <input type="button" value="Next Screen"/>	前候補群の表示 次候補群の表示	変換候補群を表示する。表示される候補群の数は、単語の長さによって変わる。

表 A-3 文節の拡大 / 縮小に使用するキー

編集キー	機能	説明
<input type="button" value="□"/> <input type="button" value="□"/>	文節縮小 文節拡大	日本語 EVE が文節の区切りを誤って判断したとき、 <input type="button" value="□"/> 、 <input type="button" value="□"/> を押して文節を正しい長さに訂正する。
<input type="button" value="□"/>	次文節	複文節変換の際、反転表示になっている文節を確定して、次の文節に移動させる。

表 A-4 TARO キーパッドの便利な定義済みキー

コマンド	定義済みキー
BOTTOM	[PF1] + []
CODE	[PF1] + [X]
DELETE	[<X]
DO	[Do], または [PF4]
END OF LINE	[Ctrl/E], または [PF1] + []
ERASE START OF LINE	[Ctrl/U]
ERASE WORD	[Ctrl/J]
EXIT	[Ctrl/Z]
FIND	[Find]
HELP	[HELP], または [PF1] + [HELP]
INSERT HERE	[Insert Here]
INSERT MODE	[Ctrl/A]
KIGOU	[PF1] + [Z]
NEXT SCREEN	[Next Screen]
NEXT WINDOW	[PF1] + [Next Screen]
OVERSTRIKE MODE	[Ctrl/A]
PREVIOUS SCREEN	[Prev Screen]
PREVIOUS WINDOW	[PF1] + [Prev Screen]
QUOTE	[Ctrl/V]
RECALL	[Ctrl/B]
REMEMBER	[Ctrl/R]
REMOVE	[Remove]
RESTORE CHARACTER	[PF1] + [Insert Here]
RETURN	[Return], [Enter]
SELECT	[Select]
START OF LINE	[Ctrl/H], または [PF1] + []
TAB	[Tab]
TOP	[PF1] + []

表 A-4 は、よく使われる編集キーと、そのキーに定義されたコマンドの一覧表です。コマンドに関する詳しい説明は、『日本語 EVE リファレンス・マニュアル』のコマンド・ディクショナリを参照してください。

B

变换对应表

図 B-1 ローマ字かな変換対応表

ローマ字					ひらがな				
a	i	u	e	o	あ	い	う	え	お
ka	ki	ku	ke	ko	か	き	く	け	こ
qa	qi	qu	qe	qo	くあ	くい	く	くえ	くお
sa	si	su	se	so	さ	し	す	せ	そ
ta	ti	tu	te	to	た	ち	つ	て	と
na	ni	nu	ne	no	な	に	ぬ	ね	の
ha	hi	hu	he	ho	は	ひ	ふ	へ	ほ
fa	fi	fu	fe	fo	ふあ	ふい	ふ	ふえ	ふお
ma	mi	mu	me	mo	ま	み	む	め	も
ya	yi	yu	ye	yo	や	い	ゆ	え	よ
ra	ri	ru	re	ro	ら	り	る	れ	ろ
*la	li	lu	le	lo	ら	り	る	れ	ろ
wa	wi	wu	we	w	わ	ゐ	う	ゑ	を
nn					ん				
xa	xi	xu	xe	xo	あ	い	う	え	お
xka			xke		か			け	
		x tu					つ		
		x tsu					っ		
xw a		xw u			わ		う		
xy a	xy i	xy u	xy e	xy o	や	い	ゆ	え	よ
ga	gi	gu	ge	go	が	ぎ	ぐ	げ	ご
za	zi	zu	ze	zo	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
ja	ji	ju	je	jo	じゃ	じ	じゅ	じえ	じょ
da	di	du	de	do	だ	ぢ	づ	で	ど
ba	bi	bu	be	bo	ば	び	ぶ	べ	ぼ
pa	pi	pu	pe	po	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
va	vi	vu	ve	vo	ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ

(次ページへつづく)

* **TARO** キーパッドで **SET ROMKANA TARO** コマンドを実行した場合、
あいうえお(小さな文字)になります。

図 B-2 ローマ字かな変換対応表 (つづき)

ローマ字				ひらがな				
k y a	k y i	k y u	k y e	k	き	き	き	き
q y a	q y i	q y u	q y e	q	き	き	き	き
k w a	k w i	k w u	k w e	k	き	き	き	き
s y a	s y i	s y u	s y e	s	し	し	し	し
s h a	s h i	s h u	s h e	s	し	し	し	し
t y a	t y i	t y u	t y e	t	ち	ち	ち	ち
c y a	c y i	c y u	c y e	c	ち	ち	ち	ち
c h a	c h i	c h u	c h e	c	ち	ち	ち	ち
t s a	t s i	t s u	t s e	t s	つ	つ	つ	つ
t h a	t h i	t h u	t h e	t h	て	て	て	て
n y a	n y i	n y u	n y e	n	に	に	に	に
h y a	h y i	h y u	h y e	h	ひ	ひ	ひ	ひ
f y a	f y i	f y u	f y e	f	ふ	ふ	ふ	ふ
m y a	m y i	m y u	m y e	m	み	み	み	み
r y a	r y i	r y u	r y e	r	り	り	り	り
l y a	l y i	l y u	l y e	l	り	り	り	り
g y a	g y i	g y u	g y e	g	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ
g w a	g w i	g w u	g w e	g	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ
z y a	z y i	z y u	z y e	z	じ	じ	じ	じ
j y a	j y i	j y u	j y e	j	じ	じ	じ	じ
d y a	d y i	d y u	d y e	d	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ
d h a	d h i	d h u	d h e	d	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ
b y a	b y i	b y u	b y e	b	び	び	び	び
p y a	p y i	p y u	p y e	p	ぴ	ぴ	ぴ	ぴ

図 B-3 モード別変換対応表 A：ローマ字漢字モード

変換後	入力するキー
、 （読点）	
。 （句点）	
・ （中点）	
— （長音記号）	
ん	 + 
「 （始めかぎ括弧）	
」 （終りかぎ括弧）	

上記のキー定義を使用する場合は、第 5 章の最初にある準備に示された操作を実行するか、日本語 EVE の SET ROMKANA TARO コマンドを実行してください。

図 B-4 モード別変換対応表 B : かな漢字モード

変換後	入力するキー
、 （読点）	Shift + <div>、 、ネ</div>
。 （句点）	Shift + <div>・ ・ル</div>
・ （中点）	Shift + <div>? /メ</div>
— （長音記号）	<div>- 、-</div>
゛ （濁音）	Shift + <div>}゛ 1ロ</div>
゜ （半濁音）	Shift + <div>}゜ 1ム</div>

索引

B

BOTTOM コマンド A-3

C

CENTER LINE コマンド 12-3

CODE コマンド A-3

D

DELETE コマンド A-3

DO コマンド A-3

DRAW KEISEN コマンド 11-1, 12-5

E

END OF LINE コマンド A-3

ENTER TANGO コマンド 5-4

ERASE START OF LINE コマンド ... A-3

ERASE WORD コマンド A-3

EXIT コマンド A-3

F

FIND コマンド A-3

H

HELP コマンド A-3

I

INSERT HERE コマンド A-3

INSERT MODE コマンド A-3

K

KIGOU コマンド A-3

N

NEXT SCREEN コマンド A-3

NEXT WINDOW コマンド A-3

O

OVERSTRIKE MODE コマンド A-3

P

PREVIOUS SCREEN コマンド A-3

PREVIOUS WINDOW コマンド A-3

Q

QUOTE コマンド A-3

R

RECALL コマンド A-3

REMEMBER コマンド A-3

REMOVE コマンド A-3

RESTORE CHARACTER コマンド ... A-3

RETURN コマンド A-3

S

SELECT コマンド A-3
START OF LINE コマンド A-3

T

TAB コマンド A-3
TOP コマンド A-3

カ

カーソル
 進み過ぎた場合 7-5
 戻す 7-5
カタカナ変換 A-1
カナ
 入力 1-11
カナ漢字モード 1-6, 1-8, 3-1
カナ入力
 英字 3-4
 カタカナ 3-2
 全角 3-6
 半角 3-5
 半角カタカナ 3-3
 ひらがな 3-1
漢字変換 4-1, A-1

キ

記号モード 1-6, 10-1

ケ

罫線 11-1
 DRAW KEISEN コマンド 11-1
 箱モード 11-1, 11-2
罫線モード 11-1, 11-2

コ

個人辞書
 ENTER TANGO コマンド 5-4
 登録 5-4
コード・モード 1-6, 10-4
コマンド・ウィンドウ 1-6

シ

次文節 A-2
初期画面 1-3

ス

ステータス・ライン 1-6
図表作成例 12-1

セ

セットアップ 1-1, 1-2
全角変換 A-1
センタリング 12-3

タ

タイプミス
 修正 8-1

テ

テキスト・ウィンドウ 1-5

二

日本語 EVE
 起動 1-9
 終了 1-12
 使用 1-1
入力
 間違えた場合 8-1
入力方法
 選択 1-8
 モードとの対応 1-8

ハ

箱モード	11-1, 11-2
パッファ	1-14
半角英数字	9-1
半角英数モード	1-6, 9-1
半角変換	A-1
半角文字の入力	2-7, 3-7

ヒ

ひらがな変換	A-1
--------	-----

フ

複文節変換	6-1
部分確定	6-2
プロンプト・ウィンドウ	1-6
文章作成例	5-1
文節	
拡大	7-1, A-2
縮小	7-3, A-2

ヘ

変換キー	A-1
変換キーパッド	1-2
再設定	1-7, 1-14
変換候補	
たくさんある場合	4-4
変換候補群	4-2
編集画面	1-5

メ

メッセージ・ウィンドウ	1-6
-------------	-----

モ

文字入力モード	1-8
切り替え	A-1
文字の入力	
カナ入力の場合	3-1
ローマ字入力の場合	2-1

モード別変換対応表

かな漢字モード	B-5
ローマ字漢字モード	B-4

ロ

ローマ字かな変換対応表	B-2, B-3
ローマ字漢字モード	1-6, 1-8, 2-1
ローマ字入力	1-10
英字	2-4
カタカナ	2-2
全角	2-5
半角	2-6
半角カタカナ	2-3
ひらがな	2-1

日本語 OpenVMS 日本語 EVE かな漢字変換入門

1999 年 4 月 発行

コンパックコンピュータ株式会社

〒 140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話 (03)5463-6600 (大代表)

AA-PQE8E-TE

